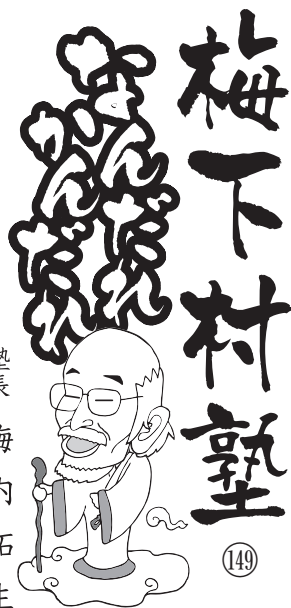


# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(恩を受け継ぐ)

分子生物学者である友人は定年後いろいろな大学や専門学校で教えているが、卒業式に出て驚いたことは、一緒に学んだことへの感謝の念の表現が忘れられていると言っていた。高等学校や中学校、そして小学校ではどうなのだろうか。

大学の卒業式は専門の資格を取って社会に出て働くという希望があるが、感謝の念はどのように卒業式に表現されているのだろうか。小学校の同級生の何人かは6年生の時に宮沢賢治の詩の「雨ニモマケズ」を毎朝クラス全体で暗唱朗読したことが、心に深く染みついて、その後の人生におおきな影響を及ぼしたといっている。

6年生の担任の先生には感謝しているとしみじみ言っている。思春期の教育がいかに大切なことである。

3・11東日本大震災後に母校の小学校を昭和55年に卒業したグループが、地域の安全安心なコミュニケーションの立ち上げの活動を全国有志と協力して展開している。母校への恩、地域への恩がにじみ出ている活動である。

世界保健機関(WHO)に勤務していた時にはパーティーの後には「蛍の光」の英語の歌をみんなで歌って別れと感謝の気持ちや感動を共有したものだ。

ある時には、英語で「仰げば尊し」の歌の意味を紹介して、日本

人グループで歌って、世界の人々と恩を受け継ぐ意味と感動を共有したことを思い出す。地域、国家、文化を超え、受け継いだ恩を伝えていくことは人類の普遍的な価値であると思う。縄文蝦夷文化を受け継いでいる気仙地方から世界に向かってこのメッセージを発信すべき時が来ていると思う。

東海文芸 詩 あれから三年 大船渡市 古水スエ子

年月は流れ、あれから三年大切な家族がいなくなった日々は何にも例えようのない

悲しみと無念さで胸が張り裂けんばかりの日でした  
星に、花に、海に、一本松に  
問いかけてみた  
「貴方、何処にいますか？」  
返ってくるはずのない  
返事

分かっていても、もしかしてと…  
千年に一度の大津波

は一瞬にして町や村を襲い、根こそぎに家も家族の人々の命もさらって行きました。悲しみと無念さで胸が張り裂けんばかりの毎日、津波が引いた後の海はいつもの穏やかな海です。

春の海 ひねもすのたり のたりかな (蕪村)

稲つまや浪もてゆへる秋津しま (蕪村)

数十年、数百年の間隔で軋む地球、マグマの噴出、地殻の運動が地震や津波となって押し寄せます。蕪村は猛々しい自然と穏やかな自然の姿をこの二つの句に詠んでおります。有情と無情のバランスの中に美は生まれて来ます。般若心経の「色即是空 空即是色」の世界に響き合います。

(けせんとわずがたり)

自然への畏敬と恩恵  
ヒデ 米国の宇宙研究グループがビッグバ

ンの直後の急激なインフレーション説を裏付けるような観測結果を報告していたね

タカ 江戸時代の芭蕉の句「荒海や佐渡によこたふ天河」と雄大な宇宙の自然を詠んでいるなあ！

ヒデ 芭蕉の「五月雨を集めて早し最上川」は地球の自然への畏敬をよんでいると思うよ

ケイ 自然への畏敬といえは蕪村の句「五月雨や大河を前に家二軒」と芭蕉の句をつなげるとびつたりときますね！

タカ 蕪村と芭蕉をつなげるのは面白いね！

ヒデ 大自然は大きなあくびをした後には恵み大きい姿になるなあ！蕪村の「春の海ひねもす のたりたりかな」、まさにこの姿だなあ！

ケイ 気仙地方は、まさに自然への畏敬と恩恵の緊張の中にくらしているのだなあ！